# 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和八年十月度　入賞句一覧

投句数　千二百　句

高木　恵理　選

## 特選

もみじはねやまをかわいくするかかり　　大垣市　伊藤　ほのか（小三）

もみじを山のおしゃれ係に見立てた、優しくて楽しい秋の発見の詩です。山の木々にも「かわいくするかかり」があったとは、と驚かされました。また、「きれいにする」ではなく「かわいくする」という表現がとても魅力的です。小さくて色とりどりのもみじは、その仕事にぴったりですね。もみじの紅葉した美しさが、生き生きと表現されています。

こおろぎが夜のおしゃべりはじめたよ　　大垣市　青木　かぐら（小三）

こおろぎは左右の前羽をこすり合わせて音を鳴らし、仲間を呼んでいますその音色は「リーンリン」「ころころ」などと表現され、音楽にたとえられることもあります。しかし、作者には虫の声が言葉のように聞こえたのですね。とても豊かな感性です。何匹ものこおろぎが楽しそうにおしゃべりしている様子を想像すると、秋の夜が一層楽しく感じられます。

友達と赤白分かれ運動会　　大垣市　中村　朱里（小五）

いつもは仲よく過ごしている友達が、運動会の日だけはライバルになるという複雑な心境を表した作品です。説明的な言葉を使わず、読み手に想像する楽しさを残しているところも魅力です。「負けたくないな」「でも友達もがんばってほしいな」さまざまな思いが浮かんできます。友達と競いながらも、お互いに精いっぱいがんばろうとする気持ちが伝わってくる一句です。

## 秀逸

おちばふむきのうとちがう音がする　　大垣市　髙田　千歳（小五）

流れ星亡き犬からのおくりもの　　大垣市　市橋　春花（中二）

賑わいはどこへいくのか夏の夕　　大垣市　安藤　涼雅（中二）

夏休み新しい恋始まった　　大垣市　野原　琉太（中二）

夏の夜返信待ちの帰り道　　大垣市　和多田　瑠奈（中二）

サイダーを飲んではじける塾帰り　　大垣市　北野　竜基（中二）

クリスマスツリーのうえのおほしさま　　大垣市　やまだ　つむぎ（小二）

雨だけどぬれてもいいやプールだもん　　大垣市　戸田　台晟（小三）

あきぞらにハートえがいたインパルス　　大垣市　河野　佳輝（小三）

星月夜帰る足音ひとつだけ　　大垣市　川口　璃乃亜（中三）

## 入選

## 小中学生の部

| | | |
|---|---|---|
| 十五夜で私を見てよと月が言う | 大垣市 | 上村　美琴（小五） |
| むしのこえしずかなよるをつつみこむ | 安八郡神戸町 | 髙木　紹愛（小六） |
| 赤とんぼみんなでとんでなかよしだ | 大垣市 | 椿　栞奈（小五） |
| ひがんばなじょうおうさまのとおりみち | 大垣市 | 大熊　柚南（小二） |
| 秋の風美声が響く体育館 | 大垣市 | 丸毛　菜都美（中二） |
| 日焼けして一学期とは別人に | 大垣市 | 後藤　望楓（中二） |
| 炎天下白球追いかけ土煙 | 大垣市 | 種田　惺成（中二） |
| 陽だまりで静かに飛び立つ冬の蝶 | 大垣市 | 鬼渕　凰花（中二） |
| 一枚の真っ赤に染まる初紅葉 | 大垣市 | 王　梓墨（中二） |
| ふわふわな入道雲に寝転びたい | 大垣市 | 平野　絵茉（中二） |
| 夏祭り友達おどるちょうのよう | 大垣市 | 伊藤　雪成（中二） |
| 黄色もみじあつめたはずがばらばらだ | 大垣市 | やまだ　ひまり（小二） |
| どんぐりをひろっていたら虫がでた | 大垣市 | 石ばしり　れい（小二） |
| 赤トンボとまってほしいぼくの指 | 大垣市 | 浅野　良介（小三） |
| あかとんぼぼうしのうえに止まったよ | 大垣市 | 山田　ゆめ（小三） |
| 銀やんま家はどこかとまよってる | 大垣市 | 松岡　采音（小四） |
| うんどうかいせんせいたちのおうえんで | 大垣市 | たかだ　あつし（小四） |
| おやすみとぼくにささやく虫の声 | 大垣市 | 原　奏介（小五） |
| むしさんも暑さに負けず生きている | 大垣市 | 荒谷　桃我（小五） |
| 杭瀬川土手一面の曼珠沙華 | 大垣市 | 市川　椋一（中一） |

## 選者吟

小春日の両手で受くるボールかな　　恵　理

